

学力向上に向けた取組

函館市立港中学校

1 課題

- 基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着
- 言語活動の充実を通して、自ら考え、豊かに表現する生徒の育成

2 課題解決の具体策

- ① 指導体制・指導方法の工夫と学習・読書習慣の定着に向けた取り組み
- ② 授業力向上と校内研究の充実

3 取組の概要

①【指導体制・指導方法の工夫と学習・読書習慣の定着に向けた取り組み】について
全国学力学習状況調査や市が実施するC R Tの分析から、「漢字の読み書き」「数と式・数量関係」「学習への意欲」などが成果としてあげられる。その反面、「家庭学習の時間、土・日の学習時間」など、家庭学習を含む学習習慣を確立することが課題となっている。そこで、生徒個々の苦手とする事項や分野の把握に努め、T Tや少人数指導による個に応じた指導の充実と、活動内容や指導内容に応じた学習形態の工夫を図った。

「読書好き7割以上、読書習慣の定着」を目指した、全校一斉の朝読書の実施と効果的な図書紹介の紹介に取り組んだ。また、基礎的事項の定着を図る放課後の学習補助や、「8割以上の生徒が1時間以上の家庭学習の習慣化」を掲げ、各教科で効果的な課題や宿題などの工夫にも取り組んだ。

②【授業実践の交流による授業力向上と校内研究の充実】について

「確かな学力」をはぐくむために、教師全員による交流授業の実践と授業評価を実施し、教師一人一人の授業力と授業の質の向上を図った。また、校内研究では「自ら考え、豊かに表現する生徒の育成」に向けた「言語活動の充実」にも取り組んだ。各教科で学習内容や指導方法を工夫し、言語活動を通じて生徒自らが「思考・判断・表現」する授業について研究を行った。

4 成果と課題

○ 1学期末と2学期末におこなったアンケートの結果から、

「読書が好き」「どちらかというとき	75% → 78%	「読書が嫌い」	5% → 2%
「家庭学習を毎日・4～5日行う」	41% → 49%	「ほとんどしない」	28% → 21%

「読書習慣・家庭学習習慣」について若干ではあるが成果が表れてきている。さらに個々の生徒に応じた指導の充実、そして望ましい学習習慣の確立に向けて家庭との連携を強め、学校と家庭が連動した取組を行うことで、より一層の成果が期待される。

- 基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着を図るとともに、「言語活動の充実」に迫る校内研究を次年度も継続し、生徒が思考・判断・表現する活用型の学習活動を通じて「確かな学力」をはぐくむ授業の構築を進めることが必要である。